

生徒指導だより

防府市立中関小学校

2024.12.6

第 8 号

相手の顔を見て・笑顔で・地域でも あいさつ大作戦！

「おはようございます。ありがとうございます。」

「あいさつ大作戦」へのご協力、ありがとうございました。期間中、1～6年生の200名を超えるあいさつボランティアに加え、31名の華陽中学校の先輩方も小学校のあいさつ運動に加わり、大作戦は大成功に終わりました。ボランティアの缶バッジだったり、シールを集める楽しみだったり、朝のあいさつを頑張る特別な期間でしたが、あいさつの大切さや笑顔になれるよさに気付くことができているようです。

保護者の皆さんには、タブレットPCを使っての振り返りにもご協力をいただき、ありがとうございました。児童や保護者の皆さんの振り返りの中から、あいさつに対する考え方や思いが伝わってくるコメントをご紹介します。

- ①朝みまわりたいや地いきのみなさんにあいさつをしたら、「おはよう！」とあいさつをしてくれて、朝元気に登校ができた事がうれしかったです。
- ①いろいろなひとが元気よくあいさつをしていたから、わたしも朝から学校せいかつが楽しくなりました。すごくかんしゃしています。
- ①あまり挨拶ができなかったのに、このあいさつ運動で元気よく笑顔であいさつができるようになりました。これからあいさつ運動がなくても、元気に笑顔であいさつをしようと思いました。頑張ります。
- ①今回、あいさつボランティアという役割があったことで、いつもより積極的にあいさつをするように本人も心がけていた印象でした。あいさつを返してもらえると、すごくうれしい気持ちになると話していた姿に、成長を感じました。
- ①顔を覚えて貰っているようで、やりとりした話をしてくれてこちらまでうれしくなりました。祖父母が近くに住んでいないので、地域の方々との交流がありがたいです。
- ①なかなか自分から挨拶するのが苦手ですが、大作戦という言葉で、挨拶への恥ずかしさが少し薄れていたと思います。地域の方とコミュニケーションを取ることで、なにかあったときの助け、防犯にも繋がるので、ぜひ子どもたちには自主的に挨拶をしてもらいたいです。



笑顔であいさつをすることが朝の楽しみになったり、笑顔であいさつをすることで1日が楽しくなったり、あいさつが生活に欠かせない大切なものだと感じている児童はたくさんいました。ですが、まだまだ地域の中であいさつができない児童が多いことも、事実です。期間中に感じたあいさつの大切さや自分のあいさつの振り返りを意識しながら、相手の顔を見て、笑顔で、地域でもあいさつが自然にできるようになってほしいと願います。

また、保護者の方から「顔を見てあいさつをするようになり、ありがたい感謝の言葉も久々に聞きました。」というコメントをいただきました。「ありがとうございます。」という声が、朝のあいさつの中で普通に聞かれる中関小学校になってほしいとも思います。

あいさつ運動が終わったら、シールもバッジはありませんが、笑顔やよい気持ちを集めながら、これからも元気に登校できるように指導を続けていきます。

これからも、保護者の皆様、地域の皆様の見守り・ご協力をよろしくお願いします。